

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771300393
法人名	医療法人社団一真会
事業所名	グループホームまごころ
所在地	香川県木田郡三木町井戸533-3
自己評価作成日	令和 3 年 9 月 18 日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3771300393-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 10 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設医療機関との連携により、受診や緊急時において迅速に対応ができ、利用者や家族の安心感を得ている。また利用者の高齢化・重度化を受け止め、終末期の方針についても、医師や関係職員、家族等と十分話し合い、家族や利用者の希望に添えるよう取り組んでいる。

職員は日々の気づきのケアを重視し、一人ひとりの要望やペースを考え、その人らしさを大切に、利用者主体のサービスに取り組んでいる。家族への報告も密に行い、家族との関係も大切にしている。住み慣れた地域での生活を支えられるよう、医療・介護の連携を図り、「まごころで良かった」と思っていただけの施設を目指し、より良質な介護サービスの提供に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スタッフと利用者の笑顔が絶えない施設である。できるだけ行動や言動に気をつけ、顔が見えてなくても、顔を間近に見える関係にも心がけている。地域の中で当てにされる施設を目指し、医療との連携も踏まえ地域の希望に応えるよう介護サービスを徹底している。職員も一人一人が仲が良く、各ユニット毎の理念を掲げてベクトルを合わせている。離職率も少なく、看取りの経験もあって、「利用者にはバタバタしている姿を見せたくない」と、きめ細かく施設の良質さを求め、職員同士が馴れ合いになりやすい恐れを回避したい気持ちが前面に管理者は気づかれ、『仕事に厳しく、人に優しい組織にする』という使命を礎に、時代に合わせてチャレンジしていこうと実践している。利用者だけでなく、職員にとっても我が家となり、定年後の職員も真心を持って立ち寄れる場として、爽やかな秋風が後押ししていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り前に経営理念・目標・当階の理念・月目標を唱和し、その理念を共有し実践している。	毎日の申し送り時に、理念を唱和しているので職員は全員覚えている。各ユニットで月の目標を定め、状況に応じた対応、挨拶、思いを汲みとる力を養うことができるように日々実践しているからこそ、管理者・ユニットリーダーは自信を持ち、業務に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は、ボランティアの方々の慰問等があり、秋祭りには獅子舞が来てくれたが、今年度に関しては、感染対策として地域との交流は行えておらず、まごころの行事も控えている。	推進会議で、「地域の行事に参加してみようか？」という意見があったのだが、コロナにより実施ができていない。しかし、交流がなくなるように、電話でのやり取りを多くしたことで、地域交流が途絶えないように工夫している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居する、しないに限らず、地域の方々からの相談等対応している。住み慣れた地域で出来るかぎり生活を送れるよう支援し、地域との支えあいを大切にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の定期開催だが、新型コロナウイルス感染症予防のため中止となっているため、書面での開催とし、入居者の状況、活動報告と予定など報告している。	コロナ以前は、民生委員、地域包括、町役場の人々が参加し、駐在所の人が来たこともあった。現在は書面でのやり取りのみで、入居者の状況、委員会や研修会を資料や写真を用いて報告している。民生委員の方が介護について質問してくることがあり、丁寧に説明したこともあった。	ありきたりの報告会で終わっているので、逆に質問をして、何をしたら良くなるかを訪ねる会にしてみようか？
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者とは電話やメールで法改正に伴う疑義について助言を得たり相談をして協力関係を築くように努めている。また入居者や地域の状況等情報交換をして連携を図っている。	窓口は管理者で、何かわからないことがあれば何でも教えてくれる関係が形成されている。しよっちゅう出向くらい縁が深い。他のGHとの交流がしたいと要望を出したら、GHの交流会を催してくれたことがあった。	管理者だけではなく、ユニットリーダーとも連携を広げて市町村とのご縁を深めてはいかげでしょうか？
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束適正化のための対策検討委員会」を3ヶ月毎に開催している。身体拘束排除理念を掲げ、施設内で研修を実施し理解している。同じ建物内のデイケアにも協力をしてもらい鍵をかけないケアに取り組んでいる。やむを得ない場合を除いて身体拘束をしないケアに職員全員で取り組んでいる。	身体拘束はしない。居室の扉は、洗濯バサミを使って物音が聞こえるようにしている。前回の委員会では、拘束による弊害について学びを深めた。言葉遣いの研修を実施した結果、スピーチロックにならないよう配慮し「5分待っていただけませんか」と言葉掛けの実践ができています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が高齢者虐待などはあってはならないとの意識を有しており、制度の理解のための勉強会を設けている。入居者本人の尊厳を保ち、寄り添ったケア、虐待のない介護に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見人制度を利用している入居者の方もおられ、連携を取りながらサービスの提供を行なっている。社会福祉協議会や後見人から日常生活自立支援事業や成年後見制度について教えていただいております、必要と思われる利用者がいれば活用出来るように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者・家族に重要事項説明書等で十分に説明を行い、不安、疑問点を尋ね理解・納得してもらった上で契約していただいている。料金改定などがある場合には重要事項説明書の変更を文書にて報告し、毎月のお便りで伝えると共に面会時にも口頭でお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱設置し、思いを伝えられる機会を設けている。来所時や電話等で意見や要望、相談を聴くようにしている。	面会が出来ない状況なので、家族とのやりとりは電話が増えた。【家族とのコミュニケーションは大切だ】という管理者の思いから、何かあればその都度、連絡を取るようになっている。家族との会話のキャッチボールが出来ているからこそ、情報共有がしっかりとできています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者・各ユニットリーダーが月一回集まり、職員の意見・提案を聞く機会を設けている。代表者とも職員が直接話す機会があり、出された意見は検討し、前向きに反映させている。決定事項は申し送りノートに記入し、全職員に伝えている。	職員同士は、仕事やプライベートのことまで何でも言える関係が築けていて、職員間の仲が良い。また管理者は、各ユニットを巡回しているので、職員の声をタイムリーに聴くことができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や個人的に意見交換を行い、不安や疑問など聞くように努め、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	安全管理や感染症の予防と対策など法人内の研修では各部署から参加し、情報の共有を行っている。資料は閲覧しやすいよう回覧している。新任研修は現場で先輩職員の指導を受けて働きながら学べるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の担当者主催で同業者と交流する機会を設けていただき、意見交換などしていたが、コロナウイルス感染症予防のため中止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に担当ケアマネから情報提供を受けたり、ホーム見学时に困っていることや不安を聞き取り、入居時、安心した生活が送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、利用者様、家族の意見(困難なこと、不安要素)を十分に聞き、ニーズに沿えるように努力を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャー・医療関係・他の専門職との連携を保ち、可能な限り必要とされる支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の個性やこれまでの生活を大切にし、ご自分で出来る事は可能な限りしてもらい、出来ない事はサポートし寄り添い、信頼関係を構築できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お便りを発行して状態の報告をしたり、面会時には家族の意向も聞き、家族の協力を得て、ご本人をサポートできる関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症予防のため、家族とはオンライン面会にて話ができるよう支援している。	往診のドクターが来て、笑顔で利用者が出迎えている姿があった。感染者数の状況を見て、施設内にあるデイサービスに来た人が面会に来たり、他のユニット同士の交流をすることもあり、身近なところで馴染みの場が形成されるようになった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係が円滑になるように席を配置したり、職員が見守りながら関わり、支え合えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談援助が必要であれば様子を聞いたり、日頃から相談しやすい関係を築くようにしている。母体の病院に入院していれば、困った事等ないか、各部署で連携を取りながら必要な支援ができるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や思いを傾聴し、意向に沿えるように職員間で話し合いの場を設け、共有、対応に努めている。	意見を言わない利用者に対しては、家族に電話して意見を聴衆している。また、職員に相談したり、他のユニットの職員に聞くこともある。元気だったときの記憶を辿り、昔はどうだったのかなと考えて、利用者の思いを把握できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴やこれまでの暮らし方を把握し、生活環境を整え、その人らしい生活が送れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの身体状況を把握し、日々の記録や申し送りノートに記載し情報を共有し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状態の観察を行い、小さな変化にも家族、職員、多職種で情報を共有し、その人に合った介護計画を作成している。	入所前に、意見の聴衆をする。介護計画は、入所時に作成し、何かあればその都度随時変更している。ドクターの意見も聴衆し、報告している。担当者会議では家族、医師、看護師、理学療法士、栄養士、管理者、計画作成担当者等で検討しプラン変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りと記録により細かいことも記載し、情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急変時の対応・医療の充実・特別浴槽が確保されており、事業所の多機能性を十分活かし個々の希望に沿った柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により外出等はいえない状況である。病院受診時や施設内周辺へ散歩に行った際、馴染みの方に会うと挨拶を交わしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き、かかりつけ医の受診を行っている。夜間、緊急時は院長や同法人の看護師に連絡し、適切な医療を受けられるように支援している。	入所時にかかりつけ医は転医される。月2回往診があり、母体が病院なので、24時間365日体制で見てくれている。他科への往診は家族がつれて行く。訪問歯科が月2回往診があり、嚥下体操や口腔ケアを実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを実施し、表情や言動等からも体調の変化に気づけるよう努めている。利用者の状態報告や相談など、同法人の看護師とは密に連絡を取り、個々の利用者が必要時に受診できる連携体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療連携体制も行っており、入院が必要な際は看護師と連携し対応している。入院中も出来るだけ顔を見に行き、本人を励ましたりしていたが、新型コロナウイルス感染防止の為、現在は入院中の面会はできていない。退院の際も受け入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重症化や終末期に事業所が出来る対応について本人や家族に説明している。看取りに関しての事前確認書類を作成し、家族、医師、職員で最善策を話し合い共有している。重度化、終末期を迎えても本人にとって良い環境が保たれるように努めている。	看取りの希望がある利用者に対しては、看取りを実施している。入居時、看取りについて説明をし、本人・家族の意向を聞き「事前確認書」を作成している。その後、状態変化に応じて説明し家族の意向を確認している。主治医の指導のもと、家族と連絡を密にとりながら、看取りケアに取り組んでいる。デスカンファレンスも実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成や緊急連絡先の明示などを行っている。また、急変時や事故発生時には他の階の協力を得られるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練(昼夜想定)の実施や119番通報システムを完備している。地震発生時の避難誘導について具体的に検討中である。地域住民の参加等はできておらず、協力体制の構築までには至っていない。	年2回、火災と地震、昼夜設定で実施している。消防署の指導のもと、東側にある非常階段まで緊急避難するようにしている。避難経路や連絡網は事務所に掲示している。備蓄は、3日分でお粥、水、缶詰、羊羹など、2階で全部管理している。チェックリストで期限の確認をし、期限間近のものは、おやつとして出す。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーを尊重し言葉かけや対応に配慮している。聞かれたくない話は個別で居室で対応している。	呼称は、苗字に「さん」付けが基本で、同姓の場合は、下の名前でも「さん」付けで呼んでいる。他の呼び方をする場合には、家族の同意を得るようにしている。トイレの扉を閉めプライバシーにも気を付けている。居室やホール、お風呂で意見が出やすく、居室に入る時は、必ずノックをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が気兼ねなく、希望や思いを発言できるよう雰囲気、環境づくりに努め、自己決定ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、どのように過ごしたいか本人の希望に沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みやこだわり、これまでの習慣を尊重し季節や場所に適した衣類等の助言を行っている。家族にお願いして好みの洋服など持ってきていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好みや能力に合わせた作業を振り分け、楽しみながら安全に職員と食事・片付けが出来るよう支援している。	各階で炊き立てのご飯を提供し、その他は施設内にある厨房で調理、盛りつけたものを提供し、元気な利用者は、机拭きや下膳の手伝いをしてくれる。プランターでミニトマトを栽培し、食卓に並べている。また、病院の栄養士がほとんど毎日来てくれ、食事や栄養管理にも気を配っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるカロリー計算した食事を提供している。必要な人にはミキサー食、キザミ食、濃縮栄養飲料、とろみなどを活用し、個々に応じた形態の食事提供をしている。食事以外でも飲み物を提供し水分量の確保をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じて、声掛け、見守り、必要に応じて介助を行っている。訪問歯科によるアドバイスを心得て実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、個々の排泄パターンを把握している。個々の能力に応じた排泄支援を行うことでできるだけ自立に向けた支援を行っている。	理学療法士が週2回訪問リハビリに来て、排泄介助のアドバイスを継続して受けている。経済的にも考慮して、排泄チェック表を活用し、パターンを把握することで、自立支援に繋げている。排泄失敗時には、小声で耳元で囁いたり、ジェスチャーで促したりして自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く摂れるよう心掛け、水分補給に努めている。食物や運動での対応が難しい利用者には医療と連携をとり薬による対応もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決めているが希望があれば随時変更している。一人ひとりの身体状況に合わせた入浴形態にも取り組んでいる。機械浴での入浴もできる設備がある。	週2回。回数は要望に応じて対応している。季節湯として、大きなゆずを湯舟に浸けたら、喜んで抱えて入浴する利用者もいた。1階のデイケアセンターの特殊浴槽やミスト浴を利用する場合もある。「温泉に行こう」「日にちを変えましょう」と利用者の気持ちに立った言葉かけをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせ、空調や照明の調節を行っている。日中、夜間問わずいつでも自由に休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を確認し効果や副作用について理解している。症状の変化に気を配り、医療との連携をし医師の協力を仰ぎ支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	パズルや塗り絵、洗濯ものたたみ等、一人ひとりの趣味、出来る事をしていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対応として外出は行えていないも、コロナ禍前は家族と一緒に外出されたり、散歩やドライブ等にも出かけられるよう対応していた。	近所の散歩をした際に、挨拶をかわすことが利用者のフラストレーション解消となっている。朝のゴミ捨て、神社のお参り、洗濯物干し、各ユニットごとの移動をすることで、身近でできる支援に取り組んでいる。夕日を眺めて癒されたこともある。花火の動画や、水族館のシャチのショーをyoutubeで流すことで、外出支援に代わることを行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に預かり金としてホームで管理している。必要時に所持、使用できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話があった際、家族の要望や入居者本人も可能な限り電話に出て話ができるように対応している。また、オンライン面会を導入している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダで花を育てたり、季節感のある壁画を飾ってあったり、不快な思いをさせることなく音量や障害物に配慮している。また温度や湿度、換気に気を配り、居心地よく過ごせるよう努めている。	リビングは、窓から明るい日が差し込み、明るく過ごしている。手作りの木が飾られていて、夏は七夕の短冊、秋は柿の木やハロウィンにちなんだ飾り付けをしている。季節を感じる壁画には、キノコとドングリの貼り絵を作成し、秋模様を体感していた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったり過ごせるようソファやテーブルを配置し、自由に過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしく、使い慣れた品物を持ち込み、本人が安心できる居室作りに努めている。	ベットとタンスが備え付けられ、窓から見える壮大な山々が利用者の心を釘づけにしていた。新聞や雑誌を読んでゆったりとのんびりと過ごすことができる。安全面に配慮した上で、利用者の希望に沿った家具の配置にし、仏壇を持ち込み、自然と手を合わせる日課が刻まれていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーになっており、ホールには手すりが多く設置されている。トイレの手すりは可倒式になっている。居室には表札をかけるなどし、居室内やホール等、移動するのに妨げになっている物はないか常に確認し、安全にかつ自立した生活が送れるよう配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771300393
法人名	医療法人社団一真会
事業所名	グループホームまごころ
所在地	香川県木田郡三木町井戸533-3
自己評価作成日	令和 3 年 9 月 18 日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3771300393-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 10 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設医療機関との連携により、受診や緊急時において迅速に対応ができ、利用者や家族の安心感を得ている。また利用者の高齢化・重度化を受け止め、終末期の方針についても、医師や関係職員、家族等と十分話し合い、家族や利用者の希望に添えるよう取り組んでいる。

職員は日々の気づきのケアを重視し、一人ひとりの要望やペースを考え、その人らしさを大切に、利用者主体のサービスに取り組んでいる。家族への報告も密に行い、家族との関係も大切にしている。住み慣れた地域での生活を支えられるよう、医療・介護の連携を図り、「まごころで良かった」と思っていただけの施設を目指し、より良質な介護サービスの提供に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スタッフと利用者の笑顔が絶えない施設である。できるだけ行動や言動に気をつけ、顔が見えてなくても、顔を間近に見える関係にも心がけている。地域の中で当てにされる施設を目指し、医療との連携も踏まえ地域の希望に応えるよう介護サービスを徹底している。職員も一人一人が仲が良く、各ユニット毎の理念を掲げてベクトルを合わせている。離職率も少なく、看取りの経験もあって、「利用者にはバタバタしている姿を見せたくない」と、きめ細かく施設の良質さを求め、職員同士が馴れ合いになりやすい恐れを回避したい気持ちが前面に管理者は気づかれ、『仕事に厳しく、人に優しい組織にする』という使命を礎に、時代に合わせてチャレンジしていこうと実践している。利用者だけでなく、職員にとっても我が家となり、定年後の職員も真心を持って立ち寄れる場として、爽やかな秋風が後押ししていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念と各階独自の理念を作り、理念を意識し実践につなげた取り組みをおこなっている。	毎日の申し送り時に、理念を唱和しているので職員は全員覚えている。各ユニットで月の目標を定め、状況に応じた対応、挨拶、思いを汲みとる力を養うことができるように日々実践しているからこそ、管理者・ユニットリーダーは自信を持ち、業務に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は、ボランティアの方々の慰問等があり、秋祭りには獅子舞が来てくれたが、今年度に関しては、感染対策として地域との交流は行えておらず、まごころの行事も控えている。	推進会議で、「地域の行事に参加してみようか？」という意見があったのだが、コロナにより実施ができていない。しかし、交流がなくなるように、電話でのやり取りを多くしたことで、地域交流が途絶えないように工夫している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居する、しないに限らず、地域の方々からの相談等対応している。住み慣れた地域で出来るかぎり生活を送れるよう支援し、地域との支えあいを大切にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の定期開催だが、新型コロナウイルス感染症予防のため中止となっているため、書面での開催とし、入居者の状況、活動報告と予定など報告している。	コロナ以前は、民生委員、地域包括、町役場の人々が参加し、駐在所の人が来たこともあった。現在は書面でのやり取りのみで、入居者の状況、委員会や研修会を資料や写真を用いて報告している。民生委員の方が介護について質問してくることがあり、丁寧に説明したこともあった。	ありきたりの報告会で終わっているので、逆に質問をして、何をしたら良くなるかを訪ねる会にしてみようか？
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新の機会に町の担当者に利用者の暮らしぶりを伝えたり、身体障害者の医療費受給の手続きや毎月の入居者数の報告なども出来る限り訪問し情報交換に努めている。	窓口は管理者で、何かわからないことがあれば何でも教えてくれる関係が形成されている。しゅちゅう出向くらい縁が深い。他のGHとの交流がしたいと要望を出したら、GHの交流会を催してくれたことがあった。	管理者だけではなく、ユニットリーダーとも連携を広げて市町村とのご縁を深めてはいかげでしょうか？
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同じ建物内のデイケアにも協力してもらい、鍵をかけないケアに取り組んでいる。やむを得ない場合を除いて身体拘束をしないケアに職員全員で取り組んでいる。	身体拘束はしない。居室の扉は、洗濯バサミを使って物音が聞こえるようにしている。前回の委員会では、拘束による弊害について学びを深めた。言葉遣いの研修を実施した結果、スピーチロックにならないよう配慮し「5分待っていただけますか」と言葉掛けの実践ができています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム独自の勉強会を持ち、虐待のない介護に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターや社会福祉協議会から日常生活支援事業や成年後見制度について教えていただいております、必要と思われる利用者がいれば活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者・家族に重要事項説明書等で十分に説明を行い、納得してもらった上で契約していただいております。オムツ料金改定などがある場合には毎月のお便りで伝えると共に面会時にも口頭でお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し、苦情・意見等を伝える機会を設けている。また、家族会を開催し意見や不満などをお聞きし、運営に反映させるよう努力している。	面会が出来ない状況なので、家族とのやりとりは電話が増えた。【家族とのコミュニケーションは大切だ】という管理者の思いから、何かあればその都度、連絡を取るようになっている。家族との会話のキャッチボールが出来ているからこそ、情報共有がしっかりとできています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者・管理者・各ユニットリーダーが月一回集まり、職員の意見・提案を聞く機会を設けている。決定事項は申し送りノートに記入し、全職員に伝えている。	職員同士は、仕事やプライベートのことまで何でも言える関係が築けていて、職員間の仲が良い。また管理者は、各ユニットを巡回しているので、職員の声をタイムリーに聴くことができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者は職員の勤務状況について話し合う機会を持ち、職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	安全管理や感染症の予防と対策など法人内の研修では各部署から参加し、情報の共有を行っている。資料は閲覧しやすいよう回覧している。新任研修は現場で先輩職員の指導を受けて働きながら学べるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の担当者主催で同業者と交流する機会を設けていただき、意見交換などしていたが、コロナウイルス感染症予防のため中止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にケアマネから情報提供を受けたり、ホームの見学時に困っている事や不安に思っている事、要望等、本人からも聴き取りをするよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談から実際に見学していただき、グループホームの特徴などを説明し、家族の相談を受け止め信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーとの連携を保ち、可能な限り必要とされる支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者にできる事はしてもらい、できない事は支え利用者・スタッフで家族的な雰囲気を作るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お便りを発行して状態の報告をしたり、面会時には家族の意向も聞き、家族の協力の下、その人らしい生活を送っていただけるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症予防のため、家族とはオンライン面会にて話ができるよう支援している。	往診のドクターが来て、笑顔で利用者が出迎えている姿があった。感染者数の状況を見て、施設内にあるデイサービスに来た人が面会に来たり、他のユニット同士の交流をすることもあり、身近なところで馴染みの場が形成されるようになった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の支え合いができるようその時の入居者の状態で席替えをしている。同席の人以外とは関りが持てないが同席の人とは支えあいができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方が入院時には見舞いに行き、話をしたりご家族にその後の様子を聞いたりして関係を断ち切らないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望を聞き、その都度話し合いを持ち、思いや意向の把握に努めている。定期的に家族の意向も確認している。	意見を言わない利用者に対しては、家族に電話して意見を聴衆している。また、職員に相談したり、他のユニットの職員に聞くこともある。元気だったときの記憶を辿り、昔はどうだったのかなと考えて、利用者の思いを把握できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしぶりや生活歴を家族にお聞きしたり、本人に昔の話をお聞きしたりして、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の声かけにより体調や心身状態の把握をし記録し、朝の申し送りで報告している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向をもとにカンファレンスで話し、意見を出し合い、介護計画を作成している。	入所前に、意見の聴衆をする。介護計画は、入所時に作成し、何かあればその都度随時変更している。ドクターの意見も聴衆し、報告している。担当者会議では家族、医師、看護師、理学療法士、栄養士、管理者、計画作成担当者等で検討しプラン変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りとメモや申し送りノート、記録により介護計画の見直しに活かしている。細かいことも記録し、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急変時の対応・医療の充実・特別浴槽が確保されており、事業所の多機能性を十分活かした柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により外出等はいえない状況である。病院受診時や施設内周辺へ散歩に行った際、馴染みの方に会うと挨拶を交わしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当施設は医院の併設施設であり、適切な対応が出来るよう整えてあるが、希望があれば他病院の受診も可能である。訪問歯科診療や歯科衛生士による口腔ケアを受けられるように支援している。	入所時にかかりつけ医は転医される。月2回往診があり、母体が病院なので、24時間365日体制で見てくれている。他科への往診は家族がつれて行く。訪問歯科が月2回往診があり、嚥下体操や口腔ケアを実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に利用者の体調を申し送りし、必要に応じて受診することができる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関との情報交換や相談を行うとともに家族とも連絡を取り合い、回復状況をお聞きするなどして早期退院に向けた努力をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関しての事前確認書類を作成し、医師・家族・職員で話し合いを行い、最善の策を考えている。重度化した場合にも本人にとって、良い環境が保たれるよう全員で話し合い支援を行なっている。	看取りの希望がある利用者に対しては、看取りを実施している。入居時、看取りについて説明をし、本人・家族の意向を聞き「事前確認書」を作成している。その後、状態変化に応じて説明し家族の意向を確認している。主治医の指導のもと、家族と連絡を密にとりながら、看取りケアに取り組んでいる。デスカンファレンスも実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成や緊急連絡先の明示などを行っている。体調不慮の利用者がいる場合、各階で情報共有し、他の階の協力が得られるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の実施や119番通報システムを完備している。運営推進会議で協力を呼びかけている。	年2回、火災と地震、昼夜設定で実施している。消防署の指導のもと、東側にある非常階段まで緊急避難するようにしている。避難経路や連絡網は事務所内に掲示している。備蓄は、3日分でお粥、水、缶詰、羊羹など、2階で全部管理している。チェックリストで期限の確認をし、期限間近のものは、おやつとして出す。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しプライバシーを損なわないよう配慮している。	呼称は、苗字に「さん」付けが基本で、同姓の場合は、下の名前で「さん」付けで呼んでいる。他の呼び方をする場合には、家族の同意を得るようにしている。トイレの扉を閉めプライバシーにも気を付けている。居室やホール、お風呂で意見が出やすく、居室に入る時は、必ずノックをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を汲み取れるよう声かけに工夫をしたり、話しやすい環境を作るよう努め、自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、個人のペースに合わせた生活を送るような希望に沿った支援をするように心掛けている。また、その日の心身の状態をみながら臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みやこだわり、これまでの習慣を尊重し季節や場所に適した衣類等の助言を行っている。家族にお願いして好みの洋服など持ってきていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同席の人で協力して食器の片付け・台拭きをしてもらい、下膳は安全の為職員が行っている。	各階で炊き立てのご飯を提供し、その他は施設内にある厨房で調理、盛りつけたものを提供し、元気な利用者は、机拭きや下膳の手伝いをしてくれる。プランターでミニトマトを栽培し、食卓に並べている。また、病院の栄養士がほとんど毎日来てくれ、食事や栄養管理にも気を配っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるカロリー計算した食事を提供している。必要な人にはミキサー食、キザミ食、濃縮栄養飲料、とろみなどを活用し、個々に応じた形態の食事提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じて声掛けや見守りを行い、必要な人には介助にて支援している。訪問歯科来所時には歯科衛生士による適切なアドバイスも受けられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、定期的なオムツ交換やトイレ誘導を行い、排泄の支援に努めている。	理学療法士が週2回訪問リハビリに来て、排泄介助のアドバイスを継続して受けている。経済的にも考慮して、排泄チェック表を活用し、パターンを把握することで、自立支援に繋げている。排泄失敗時には、小声で耳元で囁いたり、ジェスチャーで促したりして自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く摂れるよう心掛け、水分補給に努めている。食物や運動による対応が難しい利用者には医療と連携を取り、薬による対応もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望や体調に合わせて、入れるように支援している。身体状態に応じて機械浴での入浴もできる設備がある。	週2回。回数は要望に応じて対応している。季節湯として、大きなゆずを湯舟に浸けたら、喜んで抱えて入浴する利用者もいた。1階のデイケアセンターの特殊浴槽やミスト浴を利用する場合もある。「温泉に行こう」「日にちを変えましょう」と利用者の気持ちに立った言葉かけをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整え、熟睡が出来るようにしている。夜間は、照明や空調に配慮し、安眠や休息を妨げないように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に薬状をファイルし、一人ひとりの服薬について理解し、利用者に合わせて服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや洗濯物たたみ、カレンダー作り、言葉取り、魚釣り等、個々での役割やレクリエーション等の楽しみを生活の中に取り入れて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対応として外出は行えていないも、コロナ禍前は家族と一緒に外出されたり、散歩やドライブ等にも出かけられるよう対応していた。	近所の散歩をした際に、挨拶をかわすことが利用者のフラストレーション解消となっている。朝のゴミ捨て、神社のお参り、洗濯物干し、各ユニットごとの移動をすることで、身近でできる支援に取り組んでいる。夕日を眺めて癒されたこともある。花火の動画や、水族館のシャチのショーをyoutubeで流すことで、外出支援に代わることを行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで管理しているが、家族の協力を得て少額を本人が持っている人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望に応じて、自宅や知人に電話をかける支援している。また、オンライン面会を導入している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間のホールには壁画を飾り、居心地のよい空間を作り出している。また、不快な臭いがしないように換気・清潔を心がけている。	リビングは、窓から明るい日が差し込み、明るく過ごしている。手作りの木が飾られていて、夏は七夕の短冊、秋は柿の木やハロウィンにちなんだ飾り付けをしている。季節を感じる壁画には、キノコとドングリの貼り絵を作成し、秋模様を体感していた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファと椅子を置き、ゆっくりくつろいで見ることができる場を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を自由に配置し、写真や思い出の品を飾り、居心地の良い居室作りをしている。	ベットとタンスが備え付けられ、窓から見える壮大な山々が利用者の心を釘づけにしていた。新聞や雑誌を読んでゆったりとのんびりと過ごすことができる。安全面に配慮した上で、利用者の希望に沿った家具の配置にし、仏壇を持ち込み、自然と手を合わせる日課が刻まれていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーになっており、ホールには手すりが多く設置されている。トイレの手すりは可倒式になっており、利用者に合わせた使い方ができ自立した生活が送れるよう配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771300393
法人名	医療法人社団一真会
事業所名	グループホームまごころ
所在地	香川県木田郡三木町井戸533-3
自己評価作成日	令和 3 年 9 月 18 日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3771300393-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 10 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設医療機関との連携により、受診や緊急時において迅速に対応ができ、利用者や家族の安心感を得ている。また利用者の高齢化・重度化を受け止め、終末期の方針についても、医師や関係職員、家族等と十分話し合い、家族や利用者の希望に添えるよう取り組んでいる。

職員は日々の気づきのケアを重視し、一人ひとりの要望やペースを考え、その人らしさを大切に、利用者主体のサービスに取り組んでいる。家族への報告も密に行い、家族との関係も大切にしている。住み慣れた地域での生活を支えられるよう、医療・介護の連携を図り、「まごころで良かった」と思っていただけの施設を目指し、より良質な介護サービスの提供に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スタッフと利用者の笑顔が絶えない施設である。できるだけ行動や言動に気をつけ、顔が見えてなくても、顔を間近に見える関係にも心がけている。地域の中で当てにされる施設を目指し、医療との連携も踏まえ地域の希望に応えるよう介護サービスを徹底している。職員も一人一人が仲が良く、各ユニット毎の理念を掲げてベクトルを合わせている。離職率も少なく、看取りの経験もあって、「利用者にはバタバタしている姿を見せたくない」と、きめ細かく施設の良質さを求め、職員同士が馴れ合いになりやすい恐れを回避したい気持ちが前面に管理者は気づかれ、『仕事に厳しく、人に優しい組織にする』という使命を礎に、時代に合わせてチャレンジしていこうと実践している。利用者だけでなく、職員にとっても我が家となり、定年後の職員も真心を持って立ち寄れる場として、爽やかな秋風が後押ししていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に加え各階で個別の理念を掲げ、その実践に向けて取り組んでいる。	毎日の申し送り時に、理念を唱和しているので職員は全員覚えている。各ユニットで月の目標を定め、状況に応じた対応、挨拶、思いを汲みとる力を養うことができるように日々実践しているからこそ、管理者・ユニットリーダーは自信を持ち、業務に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は、ボランティアの方々の慰問等があり、秋祭りには獅子舞が来てくれたが、今年度に関しては、感染対策として地域との交流は行えておらず、まごころの行事も控えている。	推進会議で、「地域の行事に参加してみようか？」という意見があったのだが、コロナにより実施ができていない。しかし、交流がなくなるように、電話でのやり取りを多くしたことで、地域交流が途絶えないように工夫している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居する、しないに限らず、地域の方々からの相談等対応している。住み慣れた地域で出来るかぎり生活を送れるよう支援し、地域との支えあいを大切にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の定期開催だが、新型コロナウイルス感染症予防のため中止となっているため、書面での開催とし、入居者の状況、活動報告と予定など報告している。	コロナ以前は、民生委員、地域包括、町役場の人々が参加し、駐在所の人が来たこともあった。現在は書面でのやり取りのみで、入居者の状況、委員会や研修会を資料や写真を用いて報告している。民生委員の方が介護について質問してくることがあり、丁寧に説明したこともあった。	ありきたりの報告会で終わっているの、逆に質問をして、何をしたら良くなるかを訪ねる会にしてみようか？
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新時や、身体障害者の医療費受給の手続き、毎月の利用者数の報告時に、役場の担当者に利用者の状況を伝えたり、情報交換を行うようにしている。	窓口は管理者で、何かわからないことがあれば何でも教えてくれる関係が形成されている。しよっちゅう出向くらい縁が深い。他のGHとの交流がしたいと要望を出したら、GHの交流会を催してくれたことがあった。	管理者だけではなく、ユニットリーダーとも連携を広げて市町村とのご縁を深めてはいかかでしょうか？
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同じ建物内のデイケアにも協力してもらい鍵をかけないケアに取り組んでいる。やむを得ない場合を除いて身体拘束をしないケアに職員全員で取り組んでいる。	身体拘束はしない。居室の扉は、洗濯バサミを使って物音が聞こえるようにしている。前回の委員会では、拘束による弊害について学びを深めた。言葉遣いの研修を実施した結果、スピーチロックにならないよう配慮し「5分待っていただけませんか」と言葉掛けの実践ができています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム独自の勉強会を持ち、虐待のない介護に努めており、維持されている。職員間でも常に注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	地域包括支援センターや社会福祉協議会から日常生活自立支援事業や成年後見制度について教えていただいております、必要と思われる利用者がいれば活用出来るように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には利用者・家族に重要事項説明書等で十分に説明を行っている。料金の改定等がある場合には事前にお便りで伝えたとともに面会に来られた時にも伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会議や面会時に苦情・意見等を聞き、運営に反映させている。	面会が出来ない状況なので、家族とのやりとりは電話が増えた。【家族とのコミュニケーションは大切だ】という管理者の思いから、何かあればその都度、連絡を取るようになっている。家族との会話のキャッチボールが出来ているからこそ、情報共有がしっかりとできています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者・各ユニットリーダーが月一回集まり、職員の意見・提案を聞く機会を設けている。決定事項は申し送りノートに記入し全職員に伝えている。代表者とは個人面談もある。	職員同士は、仕事やプライベートのことまで何でも言える関係が築けていて、職員間の仲が良い。また管理者は、各ユニットを巡回しているので、職員の声をタイムリーに聴くことができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者は職員の勤務状況について話し合う機会を持ち、職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	安全管理や感染症の予防と対策など法人内の研修では各部署から参加し、情報の共有を行っている。資料は閲覧しやすいよう回覧している。新任研修は現場で先輩職員の指導を受けて働きながら学べるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の担当者主催で同業者と交流する機会を設けていただき、意見交換などしていたが、コロナウイルス感染症予防のため中止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にケアマネからの報告を受けたり、ホームの見学・話し合いにより不安要素や本人の希望を本人からも聞き汲み取るよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談から実際に見学していただき、グループホームの特徴などを説明し、不安要素や要望を聴かせていただくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族やケアマネジャーとの連携を保ち、可能な限り必要とされる支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に話し合いながら家事を行ったり暮らしの中で安全に行える役割を持つことで、職員や利用者との支え合いの関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月個別にお便りを書いて状態の報告をしたり、面会時には本人にとってより良い介護についての相談、話し合いをして家族と共に支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症予防のため、家族とはオンライン面会にて話ができるよう支援している。	往診のドクターが来て、笑顔で利用者が出迎えている姿があった。感染者数の状況を見て、施設内にあるデイサービスに来た人が面会に来たり、他のユニット同士の交流をすることもあり、身近なところで馴染みの場が形成されるようになった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や相性、精神状態を把握し、利用者同士の支え合いが期待できるよう配慮した役割分担や席替えを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後入院された方のお見舞いに行ったり、ご家族にその後の様子をお聞きしたりして関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望を聞き逃さないように心がけ、職員間ですぐに話し合いを持ち、把握・対応に努めている。利用者と一対一で話し合える機会を作るよう配慮している。	意見を言わない利用者に対しては、家族に電話して意見を聴衆している。また、職員に相談したり、他のユニットの職員に聞くこともある。元気だったときの記憶を辿り、昔はどうだったのかなと考えて、利用者の思いを把握できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや日々の会話から一人ひとりの生活歴を探り、把握するよう努めている。また、家族の面会時に以前の暮らしぶりや生活歴を尋ねたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過ごし方や心身状態を個別に記録として残しており、職員全員がいつでも見直すことが出来る。有する力の気づきがあれば申し送るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向に沿った介護計画を作成するよう努めている。会議や他職種との情報交換を活用して意見を出し合っている。	入所前に、意見の聴衆をする。介護計画は、入所時に作成し、何かあればその都度随時変更している。ドクターの意見も聴衆し、報告している。担当者会議では家族、医師、看護師、理学療法士、栄養士、管理者、計画作成担当者等で検討しプラン変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りと記録により実践や介護計画の見直しに活かしている。気づきも記録し、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況やニーズに合わせて前例がない事案でも話し合い、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により外出等はいえない状況である。病院受診時や施設内周辺へ散歩に行った際、馴染みの方に会うと挨拶を交わしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望があれば、かかりつけ医の受診を支援している。毎週1回訪問歯科診療を受けられるよう支援している。	入所時にかかりつけ医は転医される。月2回往診があり、母体が病院なので、24時間365日体制で見てくれている。他科への往診は家族がつれて行く。訪問歯科が月2回往診があり、嚥下体操や口腔ケアを実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて看護職員や医師に利用者の体調を伝え、適切な受診をすることができる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した医療機関との情報交換や相談を行うとともに家族とも連絡を取り合い、早期退院に向けた支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の話し合いに加え、重度化した際には医師が家族にその都度話し合いを行い、最善策を考え共有している。また、看取りについての事前確認書を作成し家族の意向を共有できるように努めている。	看取りの希望がある利用者に対しては、看取りを実施している。入居時、看取りについて説明をし、本人・家族の意向を聞き「事前確認書」を作成している。その後、状態変化に応じて説明し家族の意向を確認している。主治医の指導のもと、家族と連絡を密にとりながら、看取りケアに取り組んでいる。デスカンファレンスも実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成や緊急連絡先の明示などを行っている。また、急変時や事故発生時には後日対応について反省や情報共有に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練の実施や119番通報システムを完備している。運営推進会議では地域に協力を呼びかけている。	年2回、火災と地震、昼夜設定で実施している。消防署の指導のもと、東側にある非常階段まで緊急避難するようにしている。避難経路や連絡網は事務所内に掲示している。備蓄は、3日分でお粥、水、缶詰、羊羹など、2階で全部管理している。チェックリストで期限の確認をし、期限間近のものは、おやつとして出す。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や誇りを尊重した言葉かけ・対応に努めている。他人に知られたくないような話は個別にしたり、生活歴を考慮した言葉かけを心がけている。	呼称は、苗字に「さん」付けが基本で、同姓の場合は、下の名前で「さん」付けで呼んでいる。他の呼び方をする場合には、家族の同意を得るようにしている。トイレの扉を閉めプライバシーにも気をつけている。居室やホール、お風呂で意見が出やすく、居室に入る時は、必ずノックをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に傾聴の時間をとったり利用者の状況に合わせた選択肢を提案し、自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや体調を大切に、本人の希望にそった生活が送れる支援をするように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みやこだわり、これまでの習慣を尊重し季節や場所に適した衣類等の助言を行っている。家族にお願いして好みの洋服など持ってきていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好みや能力に合わせた作業を振り分け、楽しみながら安全に職員と準備・食事・片付けが出来るよう支援している。	各階で炊き立てのご飯を提供し、その他は施設内にある厨房で調理、盛りつけたものを提供し、元気な利用者は、机拭きや下膳の手伝いをしてくれる。プランターでミニトマトを栽培し、食卓に並べている。また、病院の栄養士がほとんど毎日来てくれ、食事や栄養管理にも気を配っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による指導や相談のほか、摂取量の記録・食事形態の変更・濃縮栄養飲料の活用などで支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態や希望に応じて介助・見守りを行っている。残存能力の維持に努めている。また、週一回の訪問歯科による衛生アドバイスを受けることが出来る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのパターンを把握することで気持ちのよい排泄の支援に努めている。個人の自立度に合わせて随時おむつの種類を変更している。	理学療法士が週2回訪問リハビリに来て、排泄介助のアドバイスを継続して受けている。経済的にも考慮して、排泄チェック表を活用し、パターンを把握することで、自立支援に繋げている。排泄失敗時には、小声で耳元で囁いたり、ジェスチャーで促したりして自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く摂れるよう心掛け、水分補給に努めている。食物や運動での対応が難しい利用者には医療と連携をとり薬による対応もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望もあり、身体状況を考慮した上で曜日や時間を決めていたが、本人の要望に合わせて当日の変更にも対応している。また、職員と利用者のコミュニケーションの場にもなっている。	週2回。回数は要望に応じて対応している。季節湯として、大きなゆずを湯舟に浸けたら、喜んで抱えて入浴する利用者もいた。1階のデイケアセンターの特殊浴槽やミスト浴を利用する場合もある。「温泉に行こう」「日にちを変えましょう」と利用者の気持ちに立った言葉かけをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムや希望に配慮し、照明や空調の調整をして自由な休息の確保に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケース記録に薬の効能・副作用・用法などを綴っており、いつでも参照できる。変更等があれば情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	計算やカレンダー作り・色塗り・パズルをしたり花の水やりをしたりと、一人ひとりの生活歴や好みに合わせた支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対応として外出は行えていないも、コロナ禍前は家族と一緒に外出されたり、散歩やドライブ等にも出かけられるよう対応していた。	近所の散歩をした際に、挨拶をかわすことが利用者のフラストレーション解消となっている。朝のゴミ捨て、神社のお参り、洗濯物干し、各ユニットごとの移動をすることで、身近でできる支援に取り組んでいる。夕日を眺めて癒されたこともある。花火の動画や、水族館のシャチのショーをyoutubeで流すことで、外出支援に代わることを行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで預かっているが、本人や家族の希望に応じて所持・使用の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	県外で暮らしている家族などに手紙や年賀状、暑中見舞いを書いたり電話をかけることは本人の希望に応じて支援している。また、オンライン面会を導入している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や植物をホールや玄関に活けたりして季節感を採り入れている。また、不快な臭いがしないように衛生面に留意している。	リビングは、窓から明るい日が差し込み、明るく過ごしている。手作りの木が飾られていて、夏は七夕の短冊、秋は柿の木やハロウィンにちなんだ飾り付けをしている。季節を感じる壁画には、キノコとドングリの貼り絵を作成し、秋模様を体感していた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	馴染みの利用者同士でゆっくり過ごすことが出来る空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を自由に持ち込んでいただいたり、レクリエーションで作成したものを好きな場所に飾ったり本人らしい居室になるよう工夫している。	ベットとタンスが備え付けられ、窓から見える壮大な山々が利用者の心を釘づけにしていた。新聞や雑誌を読んでゆったりとのんびりと過ごすことができていた。安全面に配慮した上で、利用者の希望に沿った家具の配置にし、仏壇を持ち込み、自然と手を合わせる日課が刻まれていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーになっており、ホールには手すりが多く設置されている。トイレの手すりは可倒式になっており、身体状況に合わせた使い方ができる。		